

大阪市立大学同窓会報

第 9 号

発行：大阪市立大学同窓会

<http://www.osaka-cu.net/>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138
大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内) TEL:06-6605-2087

大阪市立大学同窓会 会長・副会長座談会

発足4年目の年――

新たなチャレンジで より強いつながりを



全学同窓会がスタートして、今年で4年目を迎える。

同窓会として財政面を含めて組織面でも体制が整う節目の年と言える。この機会に、役員の皆様が3年を振り返って今後取り組むべき課題などを中心に語り合っていた。

当日欠席の岸本幸臣(生活科学部同窓会会長)、生野弘道(医学部同窓会会長)白田久美子(看護系同窓会会長)各副会長のコメントを別掲します。

●出席者(50音順)

会長 児玉隆夫

副会長 尾山 基 (有恒会会長)

市村彰男 (理学部同窓会会長)

西口克彦 (工学部同窓会会長)

喜多繁幸 (創造都市研究科同窓会会長)

●司会 広報委員 羽原顕三 (有恒会副会長)

大阪市の皆様、新年明けましておめでとうございます。

大阪市立大学同窓会

会長 児玉隆夫

卒業生の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては新年を健やかにお迎えされたことと思います。本年も有意義な一年となりますようお願いいたします。

昨年は通常の同窓会活動に加えて、五代友厚公の銅像建立に取り組みました。五代公は本学の基となる大阪商業講習所の設立に中心的役割を果たした方で、今年生誕百八十年を迎えら



れます。銅像建立の話ははじめ商友会、経友会から起こりましたが学長の示唆もあり、

全学同窓会として取り組むこととしました。銅像建立のための原資につ

2016 新年のご挨拶

平成28年

りのお願いに対し、多くの卒業生の皆さんから多額のご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。ここにあらためてお礼を申し上げます。

銅像建立に関して大学の協力をいただきながら、その具体化にこの一年のほとんどをかけて取り組みました。除幕式は本年三月十九日に行う予定です。母校を訪れた際には是非ご覧いただきたいと思っております。

さて、全学同窓会は今年で

司会 児玉会長からお話しただけですか。

児玉 全学同窓会というのはなかなか難産だったんですけれども、3年前によりよく発足することができました。皆さんの協力のおかげで、当初全学同窓会として目指していた学生への支援が徐々に広まってきたと思います。また、いつ



児玉会長

でも各地にいる卒業生の力になれるよう、各支部の活動を支援してきました。ただ、全学同窓会報誌の実現というのがなかなか着手できておりません。これが今後の最大の課題かと考えております。もう一つは広報にも関係してくるのですが、大学及び各同窓会の様子をネットから見ることが出来るように同窓会のホームページをより充実させたい、

今私の中の課題です。今年に全て完成させるのは難しいと思いますが、

できるだけ早期に実現を図りたいと思います。

尾山 私が全学同窓会に対して感じるのは、存在が分かりにくいということ、

各支部の同窓会には非常にこだわりがあるということ、早稲田大学や慶応大学の話を聞きますと、各世代それぞれに役決めを行い、

地方でも同窓会が同様に開催しています。そういったモデルを年代ごとに役割分担するなど、もっと組織だててやっていけば良いのではないのでしょうか。東京支部でもそれに近いモデルがあり、参考にして年代別テーマ別にやるなすれば、面白いと感じて人が多く集まるのではないかと思います。

児玉 今言われたように、各支部の中で若い人たちの日ごろの活動の刺激になるよう、新しい同窓会活動が行われています。全学同窓会では、そのような新しい動きをいろいろなところに紹介し、よりスムーズな活動を行えるように手立てを考える必要があります。

市村 理学部同窓会は弱小同窓会の一つですので、児玉会長がおっしゃった全学同窓会報誌の実現により、

その中で理学部同窓会の様子を皆さんにお伝え出来れば、大変有難く、会報誌の実現には非常に期待しております。また、学部を限らず全学ベースで同窓会や交流会を行うことにより、



市村副会長

けはよかったと感じております。同窓会のホームページだけでなく、大学とのコラボレーションをもっと大事にしていかねばならないと思います。

西口 この3年間で全学同窓会がどのような位置づけに立つのか、ようやく少し見えてきたと思います。そこで、そろそろ各学部と全

学で統合していくようなシステムに変える必要があるのではないかと感じています。例えばホームページや奨学金制度など、各学部が持つものなのか、全学同窓会に移せるかといったことが、学部の同窓会の中でも話題に上がっています。ただ、同窓会については在学生もどうするか考えなければならぬことだと思っております。同窓会全体として、平成世代の要求をどのような形で取り方をするのか、40代50代といった社会の中で中心的役割を担う方々の同

窓会活動はどうするのか、そういったことももっと考える必要があります。今はリタイア世代の同窓会と比較的活発だと思えますが、それに比べ、先ほど挙げた世代の活動は欠けているのではないかと思います。そういったところに全学同窓会がどのようなアプローチをするのか、それが一つのポイントになるのではないのでしょうか。

喜多 私が所属する創造都市研究科の同窓会も、全学同窓会と同じく3年目になります。私は以前から院生の会長をさせていただき、同窓会連合会にも顔を出していたので同窓会の動きはなんとなく知っていました。ただ、組織的にどうなっているのか分からない部分もまだあります。そんな中で感じたのは、創造都市研究科自体が全学の方々に認知されていないということです。創造都市研究科はできて10年になり、10周年記念誌を出して活動しているのですが、まだ本質的な仕組みが十分にできておりません。また、大学院生の同窓会入会率が低いので、その点も高めていきたいと思っています。そのためにはもっと魅力的な活動をしていきたいと考えています。

市村 皆様にお聞きしたところでは、組織の中で世代間の隔たりにどう対応していけばよいかというお話でした。同窓会として、世代間の差を埋めるためにどうすればよいといったこと

はいかがですか。

児玉 現在、同窓会には二つの特色があると思います。一つは各学部の同窓会で、それは学部の特性を生かしながら、活動されています。もう一つは同窓会の各支部です。そこは地域ごとにいろいろな学部の卒業生が集まり、学部の同窓会とは違うところがあります。先ほど話した通り、全学同窓会の新しい動きとしては、若い世代の日常活動の刺激となる場を作っていくことが求められています。

尾山 細かなことは存じませんが、各学部同窓会から資金拠出するというのは良いと思います。個人的には定期的に寄付を募ることで、財源を作っていくと考えています。しかし今それが難しいのは、大学側が学生たちの日常をより充実させようと夢基金に対する取り組みを活性化させているからです。その中で同窓会に寄付を、というのはなかなか言い出しにくい状況にありますが、同窓会としても独自の財源を作っていくかとい



尾山副会長

金の問題なのかもしれません。全学同窓会としてはなかなか財政の問題に取り組み難しいという現状があります。個人的には定期的に寄付を募ることで、財源を作っていくと考えています。しかし今それが難しいのは、大学側が学生たちの日常をより充実させようと夢基金に対する取り組みを活性化させているからです。その中で同窓会に寄付を、というのはなかなか言い出しにくい状況にありますが、同窓会としても独自の財源を作っていくかとい

同窓会に上納金を上げるようにすればどうでしょうか。各学部同窓会と大学には寄付があるが、全学同窓会にお金が回らないと困ります。又、事務局体制がしっかりしないと管理が滞る心配もあります。

西口 お金の集め方には、例えば特別の献金を貰う集め方や、入学した時の終身の費用として集めるやり方があります。こういったものは、実際に何パーセントの人が払ってくれたのか考えると、非常に心もとないものです。そうすると、そのような状況で全員に同窓会報誌を送るといったことの公平性は成り立つのかといった問題や、実質的に資金不足である現状の中で、専任の役員を置くのかといった問題が出てきます。そうすると、卒業して10年ごとに会費を集めるなどしないとなり立ちません。そういう集金のシステムを考

え直さない、組織を維持していくのは難しいと思います。

児玉 行きつくところはお金の問題なのかもしれません。全学同窓会としてはなかなか財政の問題に取り組み難しいという現状があります。個人的には定期的に寄付を募ることで、財源を作っていくと考えています。しかし今それが難しいのは、大学側が学生たちの日常をより充実させようと夢基金に対する取り組みを活性化させているからです。その中で同窓会に寄付を、というのはなかなか言い出しにくい状況にありますが、同窓会としても独自の財源を作っていくかとい

会長・副会長座談会

(一面から続く)

同窓会の組織運営に大きな役割を果たす事務局体制の充実が図れないと思います。

西口 ただ寄付を募るだけでは集まらないと思います。やはり、冠をつけないといけません。例えば10年の記念事業をやります、といった風に。それをどのような形でやるかが問題です。また、先ほどもおっしゃられたように、夢基金をやっている最中にお金を要求しても出てきません。だから区切り



西口副会長

をつけて、次は全学同窓会でやらせてもらい、その次はまた大学で、というよう

なすみ分けを行う必要があります。最近、北陸支部で地元産業活性化センターと連携して「講演会」を開き、今五代銅像建立のような案件に取り組むと同窓生の絆が強くなります。この点は如何ですか。

司会 同窓会活動の一つとしてプロジェクト的な事業、今五代銅像建立のような案件に取り組むと同窓生の絆が強くなります。この点は如何ですか。

尾山 例えは、同窓生が集うサロンの開設などはできると思います。神戸、一橋などの大学にも利便的な場所に同窓会サロンがあり、多くの卒業生が利用している様です。

児玉 施設を作るのもいいと思いますが、維持管理の面を考えると少し難しいですね。

市村 田中記念館の改装に際して、同窓会にもぜひ利用してほしいという話もありますが、卒業生にもうちょっと使い勝手のいい形を大学と相談するという手

はあと思ういます。司会 最近、北陸支部で地元産業活性化センターと連携して「講演会」を開き、今五代銅像建立のような案件に取り組むと同窓生の絆が強くなります。この点は如何ですか。

尾山 例えは、同窓生が集うサロンの開設などはできると思います。神戸、一橋などの大学にも利便的な場所に同窓会サロンがあり、多くの卒業生が利用している様です。

児玉 施設を作るのもいいと思いますが、維持管理の面を考えると少し難しいですね。

市村 田中記念館の改装に際して、同窓会にもぜひ利用してほしいという話もありますが、卒業生にもうちょっと使い勝手のいい形を大学と相談するという手

大阪市立大学同窓会
「今後の取り組み」について

生活科学部同窓会会長

岸本 幸臣

全学同窓会が発足した結果、従来の学部同窓会活動の情報共有が、大幅に進んだことを感じている。勿論、学部同窓会運営の実務的には、これまでより受益効果もあれば負担拡大の面も発生していると思うが、新たな諸活動を前進させ得ることで、全学的組織の魅力が可能になったのではないだろうか？

同窓会の第一の機能は、青春の時期に学窓を共にし

座談会当日に欠席の方からのコメント

た学友との交流・親睦にあり、この取り組みは各所で活発に展開している。しかし、通常それは学年横断型でミミ的活動に留まりがちである。卒業年次を超えた縦断的な活動へそれを転化させることが今後の課題であらう。第二の機能は、自らの仕事や専門の領域での諸先輩との連携強化を深める交流で、現役世代がその担い手となっているようだ。こうした実益型機能に全学的視点からどう支援していくのかも今後の課題となっている。第三の機能は、同窓会から見た母校へのス

はあと思ういます。司会 最近、北陸支部で地元産業活性化センターと連携して「講演会」を開き、今五代銅像建立のような案件に取り組むと同窓生の絆が強くなります。この点は如何ですか。

尾山 例えは、同窓生が集うサロンの開設などはできると思います。神戸、一橋などの大学にも利便的な場所に同窓会サロンがあり、多くの卒業生が利用している様です。

児玉 施設を作るのもいいと思いますが、維持管理の面を考えると少し難しいですね。

市村 田中記念館の改装に際して、同窓会にもぜひ利用してほしいという話もありますが、卒業生にもうちょっと使い勝手のいい形を大学と相談するという手

はあと思ういます。司会 最近、北陸支部で地元産業活性化センターと連携して「講演会」を開き、今五代銅像建立のような案件に取り組むと同窓生の絆が強くなります。この点は如何ですか。

尾山 例えは、同窓生が集うサロンの開設などはできると思います。神戸、一橋などの大学にも利便的な場所に同窓会サロンがあり、多くの卒業生が利用している様です。

児玉 施設を作るのもいいと思いますが、維持管理の面を考えると少し難しいですね。

市村 田中記念館の改装に際して、同窓会にもぜひ利用してほしいという話もありますが、卒業生にもうちょっと使い勝手のいい形を大学と相談するという手

医学部同窓会会長

生野 弘道

●児玉会長、事務局のリーダーシップにより、発足3年で全学同窓会の基盤が整備された。

特に、有恒会の功績は大で、その組織力が全学同窓会を動かしている。今後、その力が必要と感じている。

●各学部の同窓会は、参加役員を増やし、全学同窓会

活動にも力を入れていかねばならない。医学部同窓会も積極的に参加するよう努めたい。例えば、公開講座が全学同窓会で開催されるようになれば、講師派遣など、積極的に参加したい。

●就職支援としては、病院幹部職員に卒業生を雇用してみたい。全学同窓会の就職幹旋があれば、是非利用したい。

●平成世代へのアプローチは、学内行事(ホームカミングデー、ポーター祭等)に参加することから始まる。昭和世代が積極的に話しかけていくしかない。

又、在学生のクラブ活動には、昔お世話になっていたので、OCUSAなどを通じて、支援活動をしたい。

白田 久美子

同窓会の目的には、母校の発展を支援することや同窓会会員相互の親睦があります。大阪市立大学同窓会として3年目を迎え、全国的な活動が展開されていく中で看護系同窓会よつば会

形を保ったままで、その中に全学同窓会の関連内容も含めることができればと考えています。

西口 それに関してはもう少し議論を重ねた方がいいと思います。そもそも何のために会報誌を作っているのか、それを考えたとき、全学同窓会と有恒会で折り合いがつかないという疑問があります。

児玉 各学部の専門性を生かした独自の会報を今後も発行することについては異論はありません。卒業生が全学の様子、あるいは各学部の動きが手許の全学同窓会報誌で略々分かれればと

皆さんから貴重なご意見を頂き、大変参考になりました。

司会 本日はどうもありがとうございました。

向けての取り組み



大阪市立大学 国際センター所長 中川 眞

(大学院文学研究科教授)

「国際化」へ

大阪市大の国際センターは2011(平成23)年に発足しました。殆どの大学で同様の組織があるなかで、市大の国際センターは最も後発の部類に属するといっ

年にバンコクに拠点設けました。そこを軸に学術や教育の国際交流を進展させますが、海外拠点と同窓会組織とも切り離せません。例えば上海では拠点整備を契機に同窓会を一元化して100名ほどの会員規模になっています。同窓生の協力によって現役学生の上海インターンシップも開催されています。上海にゆかりの卒業生には国際交流アドバイザーになっていた

2011(平成23)年に発足しました。殆どの大学で同様の組織があるなかで、市大の国際センターは最も後発の部類に属するといっ

また、2015年には「国際化ブランドデザイン」が策定されました。これは今後十年間の市大の国際化の展開過程を可視化したものです。目玉は、学生全員の海外研修の必須化、ICT科目を導入するなど共通教育の全面改組、クオーター制の導入、海外大学との交換教授など、市大の教育・研究の姿を一新させるもので、現在、具体化の検討作業に入っています。その実現にあたっては特段の財政出動など乗りこえねばならない課題はありますが、ローカルに依拠しながら世界を見据える「トランスローカル」な大学としての大阪市のさらなる発展に寄与すると確信しております。同窓会の皆様には、今まで以上に市大の国際化に対するご理解、ご支援を賜りますれば幸いです。

センターの最初の仕事は、多くの課題を整理・検討し、国際化アクションプランとして、現場レベルでの改善方法を策定することでした。例えば、留学生受け入れの際の入管業務、アパートの保証人、大学案内の多言語化、海外同窓会の活性化、学生の交換留学先、留学生の日本語授業、危機管理ガイドブック策定、ゲストハウス改修などでした。現在は課長を筆頭とする9人体制ですが、当初は係長筆頭の6人体制で、とにかく目の廻るような忙しさを覚えました。私は教員として所長を仰せつかりましたが、専従ではありませんので、大半の負担は事務職員の方々にかけ

また、2015年には「国際化ブランドデザイン」が策定されました。これは今後十年間の市大の国際化の展開過程を可視化したものです。目玉は、学生全員の海外研修の必須化、ICT科目を導入するなど共通教育の全面改組、クオーター制の導入、海外大学との交換教授など、市大の教育・研究の姿を一新させるもので、現在、具体化の検討作業に入っています。その実現にあたっては特段の財政出動など乗りこえねばならない課題はありますが、ローカルに依拠しながら世界を見据える「トランスローカル」な大学としての大阪市のさらなる発展に寄与すると確信しております。同窓会の皆様には、今まで以上に市大の国際化に対するご理解、ご支援を賜りますれば幸いです。

属厚生学院、大阪市立大学医学部附属看護専門学校、大阪市立大学看護短期大学部、大阪市立厚生女学院、大阪市立保健専門学校、卒業生が含まれます。歴史と伝統のある看護の同窓会組織ですが、年齢層は幅広く、男性は少な、女性が多い集団です。今は医学部看護学科や大学院看護学研究科の卒業生を同窓会会員として増やし、歴史と伝統をつなげていくこと、医学部看護学科への支援は継続して行い、さらには大阪市立大学への支援を行うことが課題です。それで今後の取り組みとしては、(一)全学同窓会の組織及び活動の強化、(二)大学との連携及び在学生への支援が必要と考えます。

海外からの留学生関係では「外国政府推薦入試」を始めました。関西に拠点を置く海外総領事館から推薦された受験生のための特別入試で、授業料が免除されます。タイ、ベトナム、韓国、インドネシアなどから優秀な学生が入学して勉学に励んでいます。大学の国際化には海外拠点も欠かせません。2013年に上海に、2015

属厚生学院、大阪市立大学医学部附属看護専門学校、大阪市立大学看護短期大学部、大阪市立厚生女学院、大阪市立保健専門学校、卒業生が含まれます。歴史と伝統のある看護の同窓会組織ですが、年齢層は幅広く、男性は少な、女性が多い集団です。今は医学部看護学科や大学院看護学研究科の卒業生を同窓会会員として増やし、歴史と伝統をつなげていくこと、医学部看護学科への支援は継続して行い、さらには大阪市立大学への支援を行うことが課題です。それで今後の取り組みとしては、(一)全学同窓会の組織及び活動の強化、(二)大学との連携及び在学生への支援が必要と考えます。

海外からの留学生関係では「外国政府推薦入試」を始めました。関西に拠点を置く海外総領事館から推薦された受験生のための特別入試で、授業料が免除されます。タイ、ベトナム、韓国、インドネシアなどから優秀な学生が入学して勉学に励んでいます。大学の国際化には海外拠点も欠かせません。2013年に上海に、2015

バンコク
支部

幅広い世代で活動中！
市大国際センターとの
交流も

同窓会 支部 **だより**



平成27年5月8日、バンコク市内のレストランにて食事会を開きました。バンコク支部は30年以上続いていますが、メンバーの大半が駐在員である為、入れ替わりが激しく、また、人数も安定していません。現在は約20名、年齢層は20代から70代までと幅広くなっています。今回は他大学とのゴルフ対抗戦を前にした食事会で7名が集まりました。年齢は様々ですが、学生時代の思い出や、よく通った店などの話で盛り上がり、3時間があっという間に過ぎました。こういった食事会や、ゴルフコンペが主な活動ですが、大阪市立大学の国際センター事務所がバンコクに開設されたことを受けて、最近は国際センターの方との交流も始まっております。これから先、バンコクに駐在、移住される方がおられましたら、ぜひご連絡下さい。

●幹事 濱田洋子(文平2卒)

●参加者

清水博幸(商昭54)、新熊肇(経昭57)、勝田昇(工修平1)、喜多羅和宏(経平3)、石井信行(法平4)、田中健二(経平8)、濱田洋子(文平2)

鹿児島
支部

「日本近代化の歴史」に思いを馳せる見学会と総会

平成27年11月7日、五代友厚ら引率者4名と薩摩藩留学生15名が150年前に日本近代化の為に欧州に向けて出港した鹿児島県いちき串木野市羽島港に集合しました。

五代の薩英戦争からの経緯説明から始まり、長崎時代の上申書には「上海で米や海産物売りさばき、その利益で製糖機械を購入し…、留学生を派遣し…欧州の蒸気軍艦、貨幣製造機や紡績機械を買い付けること」とあり、のちの人材育成と財界人として思考の一端が垣間見られました。

鹿児島県内では「国民文化祭」も開催中で、薩摩藩英国留学生記念館では大勢の来館観客があり、寺島宗則や森有礼らの子孫も訪れておりました。その中で我々グループの為に専門員の方に五代友厚を中心とした具体的なヒストリーを説明して頂き、また留学生(当時13歳)のカリフォルニアブドウ王長沢鼎の貴重な遺品の品々も見学できました。

引き続き「さのさ荘」に移動し、宮野副学長をお迎えして総会を開催、活動報告や決算報告の承認を行い、大学の現状や方向についての説明をお聞きし、また五代友厚銅像建立の話も伺い、鹿児島との身近さも感じました。

最後は逍遙歌で締めくくり、記念撮影で総会の幕を閉じました。

●出席者

池田礼子(厚女昭41)、平田宗興(医昭46)、中村俊久(商昭47)、斎藤加代子(生昭47)、太田秀夫(文昭51)、池田耕治(医昭53)、満園健士郎(商昭56)

北陸
支部

「産業活性化と地方創生」をテーマに講演会

講師：藤沢久美氏(本学生活科学部 平成元年卒業)

平成27年9月6日(日)金沢都ホテルで第7回北陸支部総会が開催されました。総会に先立ち、北陸支部と一般財団法人北陸産業活性化センターの共催で講演会が行われました。

同窓会支部として、講演会の催事は初めての企画です。

一般財団法人北陸産業活性化センターは北陸三県の産業活性化を図る目的で昭和62年に設立されたもので、今回の講演会開催のような産官学連携が行われる例は少ないものです。

また、参加費無料として、地域の一般の方々に広く参加していただくことを目的としました。

講演会は現在の日本、特に地方が直面している少子高齢化と労働力不足に焦点を当て「若者・女性・シニア層の活躍による産業活性化と地方創生」というテーマで、シンクタンク・ソフィアバンク代表の藤沢久美氏(生科平元)にお話をいただきました。講演内容は次のとおりです。

藤沢氏は2007年よりダボス会議にヤンググローバルリーダーとして参加されていますが、その中で聞こえてくる日本に対する声は、30年後には日本の存在感がなくなるというものでした。しかし、その一方で開発途上国への支援においては、ただ整備するだけではなく、その後利用する地域の人でメンテナンスができるスキルも教えて人を育てていくという日本の支援の評価は高いといえます。

また、日本では社歴の長い会社が多いこと、日本語が長く使用されていること、天皇制がずっと続いていることなど、その持続性が注目を浴びています。

これからの社会で地方が元気になるためのキーワードは「若者、女性の活躍」「新しいプレーヤー」「大企業より中小企業」であると思います。

若者の価値観が違ってきていると感じています。彼らは仲間と一緒に誰かのためになら働きます。だから、いい環境で社会に役立つ会社で働きたいと考えています。

また、京都府与謝野町の「与謝野ブランド戦略」のクリエイティブディレクターに、田子學さん(MTDO inc.)が就任されるなど、アーティスト、デザイナーが地域の産業活性化に参画されることが多くなってきました。

日本が生き方、働き方で世界をリードしていく存在になっていくためには、民意が活かされる社会になる必要があります。都市部だけの発展だけではなく、地方自治体の連携、都市部と地方の連携が産業活性化、地方創成の礎となるでしょう。

(編集部)

五代友厚 銅像建立

ご協力ありがとうございました



市大同窓会では、五代友厚の生誕180周年を記念し、平成26年7月(平成28年2月12日)を迎え、母校大阪市立大学の前身・大阪商業講習所の創設に尽力した五代友厚を記念し、平成26年7月銅像建立に向けて「プロジェクト実行委員会」がスタートしました。併せて、大学側の対応窓口(法

除幕式は平成28年3月19日(土)

人運営本部及び大学史資料室との「プロジェクト検討チーム」も組織され、全学ベースでの協力体制が出来上がりました。また、実行委員会では同窓会会員を対象に所要資金約3000万円の寄付金募集の活動に入り、現在に至っております。当プロジェクトの進捗状況(寄付金含む)及び記念行事等は次の通りです。

1 銅像建立場所は時計台の本館西の文学部棟と商学部棟の道路側緑地帯に決まり、その場所は「多くの学生が集まる憩いの場」として造園と周辺の環境整備等を行うことを検討チームで申し合わせた。五代像は、全高340cm(像230、台座110)にて喜多敏勝氏(富山県高岡市出身、主たる作品は武田信玄公像、井原西鶴像、團琢磨胸像等)の作品による。

2 寄付金の方は、同窓生皆様の協力の御蔭で総金額4358万円(平成27年10月末日現在)に達し、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。10万円以上のご寄付を頂いた方には、銅像台座の銘板に寄付者の氏名(学部卒業年次並びに団体名ゼミ、クラブ等を刻み、末永く顕彰いたします。)

3 今後のスケジュールは、銅像設置及び造園整備等は平成28年2月末日までには全て完了する予定です。銅像除幕式典等記念行事は平成28年3月19日(土)に開催することが決まりました。

平成27年11月3日(火)祝「つながる力2015」生まれかわった市大キャンパスにかえろう」をテーマに大学主催で開かれた。今年は創立135周年を迎え、大学にとって大きな節目の年でもあり、多くの卒業生や在学生が集った。オープニングイベントは、西澤学長の話で始まり、松永桂子氏(創造都市研究科准教授)の講演と瀬戸山隆三氏(オリックス・バファローズ執行役員球団本部長)の特別講演があった。

南澤会のコラス

第14回ホームカミングデー開催

同窓会バッジが完成！

ツアーや各学部同窓会とクラブ・サークルOB会等の連携があり、最後のイベントとして学長主催ウェルカムパーティーで締めくくりました。(編集部)

されたとの記録がある。今回は制作にあたり全学

また五代友厚銅像の寄付者には、除幕式典で記念品としてお渡しします。



(編集部)

同窓会
TOPICS

有恒会主催「秋のウォーキング」

— 五代友厚の足跡を訪ねて —

全学同窓会では、五代友

厚の生誕180周年を記念して大学本館キャンパスに銅像建立に取り組んでいる。

この銅像建立に合わせて有恒会の協力を得て「五代友厚の足跡を訪ねて」を企画した。

当日(10月3日)は、すがすがしい秋晴れで参加者39名が午前10時、地下鉄阿波座駅に集合した。

当日の行程は次の通り。案内役は全学同窓会・プロジェクトメンバーの柴田洋氏(商昭58年卒)にお願

堂

⑥大阪株式取引所(現在、大阪取引所)

⑦大阪会議「花外楼」

⑧大阪商工会議所(現在、大阪商工会議所)

◇ 先ずは、阿波座南公園の中に位置する五代が創設し

た大阪商業講習所(1880年、明治13年創立)を訪ねた。母校は今年創立135周年にあたる。

次に、五代旧邸の大阪科学技術センター経由で中之島界隈に入り、日本銀行大阪支店、中之島公会堂、大阪取引所を訪ねた。

途中、テレビ放映中の「朝がきた」で広岡清子

が設立した「大同生命」本社に立ち寄った。このドラマで五代友厚は広岡清子の事業に対しアドバイスと支援等

で関わっている。

昼食は明治維新で歴史上重要な大阪会議があった「花外楼」でいただいた。

「花外楼」では、女将さんから大阪会議にまつわる色々の話を聞き、五代への思いを新たにしたい。

昼食後、大阪商工会議所を訪ね、午後3時頃、解散した。

その後、希望者を募り、大阪企業家ミュージアムで開催中の五代友厚展を見学した。

(編集部)

平成27年度
定期総会
開催

11月3日、ホームカミン

グデーに合せて定期総会が田中記念館ホールで開かれた。

平成26年度活動は前年度に引き続き、広報活動、大学及び在学生支援、支部活動支援等(全て承認された。

他に、五代友厚銅像建立事業をプロジェクト案件として取り組む。

平成27年度の活動計画

(案)は次の通り。

(1) 広報・PR、
協力要請活動

①全学同窓会報発行・充実化(年3回、1・5・9月発行)

②ホームページの充実・強化

③各支部・関係クラブへのPR・協力要請

④在学生と卒業生の交流拡大

⑤ホームカミングデー(大学主催)の更なる充実化

(2) 在学生支援活動

①就職支援・進路相談活動

②海外支部 10支部からの増設と再整備

③その他

④海外支部 10支部からの増設と再整備

⑤その他

⑥海外支部 10支部からの増設と再整備

⑦その他

大阪
市立大学
工学部
の歴史
Ⅲ

人見 宗男 (理工昭31年卒)

工学部が杉本キャンパスに移転した一年半後、全国的に吹荒れた大学紛争が工学部にも波及、工学部長事務取扱が初就任していた教授会は学部改革案を提案した。その数ヶ月後、全学共闘会議の封鎖が杉本キャンパス本館に拡大、渡瀬譲学

長は止む無く警察機動隊による封鎖解除と約2ヶ月間の学内駐留によってキャンパスの正常化を進めた。

しかし工学部では、1971年の学位審査問題(約1年間責任追及を続けたC君が学位修得後他界)以降、部長事務取扱ニュースでの学部運営・教養課程工学部生の差別発言等が起り、この間4教授の他大学への転出もあった。本来の研究・教育の回復には約4年を要し、1979年になって漸く、教授会主催の「工学部・工学研究科送別式と祝賀の饗宴」は同窓会が寄贈」が始まった。



写真①工学部学術情報交流センターの談話室内の様子

技術を目指してを文化交流センターの11月講座として実施した。談話室(写真①)とセミナー室を備えた工学部学術情報交流センターは1987年に竣工し、開所式・祝賀会の終了後に大阪市に寄贈した。

1990年、技術の急速な多様化と情報化に即応できる研究・教育体制にするため、情報工学・生物応用化学の2学科を新設して8学科に改組、翌年に2学科の研究・教育用学舎のF棟

の竣工が、この年を工学部の一層の飛躍の節目とするため、創立40周年記念事業(工学部学術情報交流センター設立、記念講座・式典・祝賀会等の開催)および記念事業後援会による募金の実施を決定。翌年、記念事業委員長に安藤慶一(工学部)後援会長に井田憲治(同窓会)が就任、記念講演会・式典・祝賀会を東洋ホテルにて挙行、記念講座(21世紀の

(写真②)が竣工した。その翌年に公立大学で初の寄付講座「メンブレイン(太陽)講座」を建築学科に、翌年に寄付講座「マイクロエレクトロニクス(オムロン)講座」を応用物理学学科に開設した。

1994年の教養課程廃止で4年間の学部一貫教育となり、社会人入学特別選抜制度の初選抜を実施。1996年には工学部内LANが学術情報総合セン

ターLANに連結し、学術情報世界の受発信が進展した。

1999年には学際的な技術革新に対応できる研究・教育体制を構築するため、知的材料工学と環境都市工学の2学科を新設して10学科に改組、翌年2学科の研究・教育用の学舎G棟(写真③)が竣工した。

大学院重点化で全専任教員が大学院所属に変わった。2001年以降、工学研究科の各専攻の分野を広領域化し、基幹学問分野と学際領域分野がバランスした組織にするため、4専攻(機械物理学系・電子情報系・化学生物学系・都市系)に再編、大阪市の人員削減計画にも対応するべく、人材を適正に配置できる大講座制を採用した。また、博士課程の定員も前期147名・後期43名に改正。更に、異分野の教員が連携して特色ある研究を開発し、より視野の広い人材を育成するため、専攻横断的な3研究機構(マテリアル系、ロボット系、都市・環境系)を新設した。また、2005年に入学定員を2800名に増員、翌年までに工学部の8学科が日本技術者教育認定機構の「JABEE認定」を取得し、それらの認定学科の卒業生には「技術士一次試験」が免除されることになった。

2015年現在の工学部は、2009年に再編された6学科(機械、電子・物理、電気情報、化学バイオ、建築、都市)編成で、工学研究科4専攻と同じ領域制(機械物理学系…1学科・3領域・12分野、電子情報系…2学科・6領域・19分野、化学生物学系…1学科・4領域・10分野、都市系…2学科・6領域・25分野)になっている。

(この項おわり)

◇編集後記◇

今年には全学同窓会がスタートして4年目を迎える。全国26支部には全学ベースで多数の同窓生が集まり、お互いに繋がりが出来つつあり、その活躍と成果を大いに期待したい。

(編集人)

(株)ブライダルは大阪市立大学同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

38年の実績

(株)ブライダルは今まで法人、官公庁、各大学会報誌などで数多くの方々の、結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも「結婚」という形で、社会に貢献できる企業を目指しており、この度、賛同を得て「大阪市立大全学コース」を設立致しました。この同窓会報を見たとおっしゃって下されば、同窓会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させて頂きます。

大阪市立大全学コース

登録料 50% OFF

●ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

●エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

携帯サイト <http://www.bridal-vip.net/m/>

右のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



株式会社 **ブライダル**
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

PC・スマートフォン <http://www.bridal-vip.co.jp>
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F TEL.03-5325-5505
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F TEL.06-6442-0666

お問い合わせ 0120-415-412
(月曜定休)
フリーコールがご利用できない地域があります。その場合は東京本社へお願いします。

